



光輝く轟の芽

V: Vision & M: Method & W: Work Hard

千葉市立轟町中学校
学校だより第4号
令和7年6月30日

挨拶があふれる学校づくり

校長 甲斐 安弘

最近では、隣近所の人と顔を合わせても挨拶をしない人が増えていると言われています。挨拶は、互いのコミュニケーションを深める一歩目として、大切であることは言うまでもありません。そして、挨拶は無意識のうちに互いの存在を認めているという、人権を尊重するという意味からも大切です。それ以上に大切なことは声を出して挨拶をするという行為です。私は、挨拶があふれる学校づくりを通して、相手に対する思いやりや助け合いの心を育てたいと考えています。その手立てとして、集会、学校だより等を通して、自分から挨拶する必要性を伝えるようにしています。また、毎朝、校門に立ち、生徒や地域の方々と挨拶を交わすようにしています。

大人の社会でも挨拶がとても重要視されており、企業の多くは新入社員に対して、挨拶の仕方や必要性などを教える「挨拶教育」を徹底して行っています。

経営心理学を専門とするある大学教授は、挨拶ができない職場について、次のように言っています。

- 挨拶が減るとコミュニケーションのきっかけがなくなり、情報交換が滞る。その結果、うっかりミスが多発する。
- 挨拶が更に減り、挨拶の際に声を出さず、頭を下げるだけになると、多くの社員はストレスを感じるようになり、意識的に力を抜くものや遅刻・欠席をするものが増える。その結果、職場の雰囲気が悪化し、生産性が落ちる。
- 職場の雰囲気が更に悪化し、頭を下げるどころか全く挨拶なくなると、相手や組織全体への怒りが膨れ続ける。その結果、職場が崩壊する。挨拶は、「攻撃性を減らす」という役割がある。よく思っていない相手でも、向こうから明るく挨拶されると怒りが薄れる経験は誰もが思う。

大人の社会であっても、これほどまでに挨拶は重要なものなのです。今年度は、生徒会総務が「挨拶プロジェクト『Make eye contact』」を立ち上げ、生活委員会と連携し、挨拶運動を行ってくれています。全校生徒が心を一つに素晴らしい挨拶ができる轟町中学校をつくりあげてほしいと思います。保護者・地域の皆様とも一緒になって「挨拶」を通して、子供たちを育てていければ幸いです。

千葉市姉妹都市ヒューストン市から4名の留学生がやってきました ～青少年交流事業～

6月2日(月)～6月14日(土)の間、千葉市の姉妹都市

であるヒューストン市から4名の生徒が来日し、日本の学校生活を轟町中学校の生徒とともに過ごしました。とても温かい雰囲気の中、本校の生徒から積極的に交流を図る姿が見られ、心に残る日本での学校生活を送ることができたと留学生たちは話していました。今回の経験が本校の生徒にとって、様々な国の人々と交流を図るすばらしさを知り、世界に視野を広げていくきっかけとなっていくことを願っています。

